

市区町村名	青森県むつ市	担当部署	総務政策部 総合戦略課
		電話番号	(0175) 22-1111 (内線 2817)

1 取組事例名

弘前大学・青森中央学院大学 むつサテライトキャンパス

2 取組期間

平成 27 年度～（継続中）

3 取組概要

- 高等教育機関が存在しない当市に、高等教育機会の充実等に関する事業実施の拠点として、弘前大学・青森中央学院大学・当市が三者共同により「むつサテライトキャンパス」を設置する。
- むつサテライトキャンパスは、箱（キャンパス）をもたない、まったく新しいタイプのサテライトであり、豊かな自然に育まれた当市のフィールドすべてがキャンパスとなる。
- 講座や講義を市内公共施設で実施し、市民の皆様の教育機会の充実や両大学の滞在型学習の支援・留学生交流事業の実施、豊かな地域資源を活かした産業振興に取り組む。

4 背景・目的

【実施に至った背景】

当市は青森中央学院大学と平成 25 年 11 月 2 日に包括連携協定を締結し、同大学地域連携センターを中心に地域産業振興や人材育成等に取り組んでいる。

弘前大学とはこれまで北日本新エネルギー研究所や食料科学研究所と個別に連携協定を締結してきたが、平成 27 年 7 月 7 日に地域の課題に迅速・適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目的とした包括連携協定を締結し、今後一層連携して取り組むこととしているところである。

このような取組をさらに強化するとともに、高等教育機会の充実や滞在型学習の支援、産業振興などに関する事業実施の拠点とするため「弘前大学・青森中央学院大学 むつサテライトキャンパス」を弘前大学・青森中央学院大学・当市の三者共同で設置し、地元企業等との協働により、当市が目指している「地方創生」や「地域の人材育成」等に寄与できる事業に取り組むものである。

【取組の目的】

1. 若者の流れの創出
2. 高度な学習機会の提供
3. 産業振興
4. 地方創生
5. 地域の人材育成

5 取組の具体的内容

1. 専門講座等の実施

- 大学専攻講義レベルや大学一般講義レベルの各種講座を市民向けに実施する。
 - ・高校生向け講座

- ・経営者向け講座
- ・大学一般講義レベル
- ・社会人向け講座
- ・食育健康講座
- ・観光講座

2. 滞在型学習プログラムの実施

○両大学の学生や教員が当市に数日間滞在し、むつ市をフィールドとして活用した学習を行う。

3. むつ下北版「2016サマーカレッジ」(むつ下北地域ふるさと紀行)の実施

○全国から参加者を募集し、当市の歴史や文化等について、大学教員等を講師とした座学とフィールドワークにより学習を行う。

4. 留学生地域交流支援事業

○両大学留学生を講師とした市民向けの外国語会話講座を実施する。

○両大学留学生が当市事業において通訳等の協力をを行う。

5. 観光、食、エネルギー、健康分野における産業振興

○大学における研究のシーズと地域のニーズのマッチングによる地域資源の掘り起こしと活用に関する調査研究を行う。

6 特徴(独自性・新規性・工夫した点)

○むつサテライトキャンパスは、箱(キャンパス)をもたない、まったく新しいタイプのサテライト

○大学との連携により高度な学習機会を提供

○大学生が当市を訪れることにより、活気やにぎわいが生まれ、よそ者の視点による魅力や課題の発見、解決が期待できる。

○豊かな自然に育まれた当市のフィールドを活かした学習を行うことによって、新たな産業や視点が生まれる。

○地方創生につながる。

7 取組の効果・費用

【効果】

1. 若者の流れの創出

○弘前大学および青森中央学院大学の学生や教員が当市をフィールドとして活動することにより、まちが若者であふれ活気や賑わいが生まれる。

- ・H28年度 444人(予定)

- ・当市の20~24歳人口 987人(H22年度国勢調査数値)

- ・一時的ではあるが約45%に相当する若者が活動を行う。

○「若者」、「よそ者」の発想が持ち込まれ、地域の魅力や課題を発見するとともに、それらを伸ばし解決してくれることが期待される。

2. 高度な学習機会の提供

○市民の学びの機会が増える。

○地域で活躍できる人材育成につながる。

【費用】

1. 滞在型学習に係る助成

○下北自然の家利用助成

- ・宿泊費免除

- ・食費、シーツ代助成(280,000円)

○民間宿泊施設利用助成

- ・宿泊費助成(250,000円)

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

当市と両大学間は、電車・バスをはじめとした公共交通機関が存在するものの、車で弘前大学まで3時間、青森中央学院大学まで2時間と時間を要する。

加えて、公共交通機関の本数の少なさによって有効な時間を使えない点や大学生の費用負担が大きくなる点があり、取組を進める上で、「距離・時間・費用」が大きな課題となった。

そのため、当市では、市公用バスを当市と両大学間を運行することとして、これらの課題を解決した。

9 今後の予定・構想

大学をはじめとする高等教育機関がなかったむつ市にとって、大きなチャンスの到来である。

むつサテライトキャンパスは高度な学習の機会を提供することにより、市民の学びの機会が増え、むつ市自らが活性化する「力」を得る。

また、むつサテライトキャンパスは、学生を当市に呼びこみ、若者がいることで活気や賑わいが生まれ、その若者はよそ者の視点によるむつ市の魅力や課題を発見し、よそ者の発想でそれらを伸ばし解決してくれる。

さらに大学と連携できることで、地域のニーズや課題への取組みが、より高度なレベルでなされることにより、新たな産業の創造も可能である。

このように、むつサテライトキャンパスは様々なチャレンジを成功へと導く架け橋となることが期待される。

むつサテライトキャンパスの取組を通じて、当市で学ぶことの意義を知っていただき、将来的には高等教育機関が当市に設置されることにつなげていきたい。

10 他団体へのアドバイス

高等教育機関の設置や誘致はハードルが高くハード整備のための費用や時間がかかる。

しかし、むつサテライトキャンパスの取組は、ハード整備は不要であるにも関わらず、年間400名を超える若者の流れを創出し、まちに賑わいと活気をもたらすものである。

ぜひこの取組が「むつモデル」として参考になれば幸いである。

11 取組について記載したホームページ

<http://www.city.mutsu.lg.jp/index.cfm/13,44837,14,849,html>